

令和7年度学校評価自己評価表（最終）

廿日市市立大野東中学校

評価計画				自己評価					学校関係者評価 コメント	
中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	担当	評価項目・指標	中間 9月	評価	最終 2月	評価		成果（○）・課題（●）・改善策（◎）
自他を認め合う 生徒	共創する力の育成 ★☆☆	・生徒が相互に認め合う集団づくりによる共感的人間関係の育成 ・教育相談体制の充実 ・学級活動、SHRの充実	生徒指導	・学校生活アンケートにおける「周りの人は自分を認めてくれていると思う」への肯定的回答の割合が80%以上	83.2%	A	83.9%	A	○週1回の「心の健康観察」や年3回のいじめアンケート・教育相談を通して、実態把握に努めることができ、実態に応じて学活（SST）の内容を学年ごとに検討し実施することができた。また、それを日頃の学級経営や授業づくりに活用することができた。	・二つの自己評価の数値を見て、自己肯定感の高さに驚いた。授業の雰囲気も男女の壁もなく、良い雰囲気である。 ・教師が授業をファシリテートしながら子供たちの思いを引き出して、子どもたち一人一人を見て対応していく必要がある。
		・生徒が相互の考えを尊重する授業づくりによる人間関係の構築。小中一貫教育の推進。	教務	・学校生活アンケートにおける「課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」への肯定的回答の割合が80%以上	88.2%	A	89.5%	A	○「総合的な学習の時間」の取組や振り返りを通して、互いの意見を尊重した議論や行動の必要性に気付き、円滑な人間関係づくりを進めようとする意欲と態度を育成することができた。 ●授業や課題解決等への意欲は高いので、課題設定を工夫することで引き続きモチベーションの高さを生かせるように取り組む。	
目標をもち 挑戦する生徒	調整する力の育成	・安心して目標に向かって挑戦できるような居場所づくり	生徒指導	・生徒アンケートにおける「将来の夢や目標に向けて努力している」への肯定的回答の割合が80%以上	71.4%	B	72.9%	B	○安心して生活できる居場所づくりについて、生徒・保護者・関係機関とともに考えることができた。 ●将来のイメージが具体的にできない生徒や、自分に自信が持てず将来に悲観的な生徒もいる。自己肯定感を高める取組を行うとともに、目標を設定し、自他それぞれが評価する機会を設ける必要がある。	・生徒を100%同じ方向に向かわせる必要はないのではないか、と感じる。
		・自己の学びを振り返り、試行錯誤により学ぶ力を身につける授業の創造	教務	・生徒アンケートにおける「授業では、自ら考え、選択し、決定する場面がある」への肯定的回答の割合が80%以上	89.0%	A	95.7%	A	○問いの工夫（教科書を見ればわかるもの、根拠を示して推察するもの等）や、自分に合ったデジタルの問題を選択するよう促したことが、肯定的回答につながったと捉えている。 ●アンケートの質問文に対する生徒の捉えが表面的で、安易に高い数値を達成した可能性も考えられる。「振り返り」や「試行錯誤」の場面を、より積極的に取り入れて、主体的な学びに対する意識を高める必要性を感じる。	
物事の本質を考える 生徒	問う力の育成	・生徒会活動や特別活動、体験活動の充実 ・身に付けたスキルを日常生活で生かせるよう、学活等でSSTを実施	生徒指導	・生徒アンケートにおける「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた」への肯定的回答の割合が80%以上	69.6%	B	80.5%	A	●意欲は高いものの、自分の成果に満足できない生徒も見られる。また、全体の場で考えを表現することに苦手意識を持っている場合や、そのすべを持っていない、または生かせない生徒が多いと感じる。 ◎skillを身につかせると共に、ICTを利用して総合評価を取り入れ、工夫点に気づかせたり、意識させたりすることで、それぞれの良さを認め合える機会を増やす。 ●学活でSSTは実施しているものの、実施回数も限られるため、それが実際にスキルアップにはつながっていない。 ●授業等で表現の場を設定しているが、不安や緊張が大きくなり、授業の参加だけでなく、登校自体が難しくなる生徒もいる。	・特定の教科における点数の格差や、基礎学力の底上げを求める声が上がった。
		・基礎学力向上のための教育活動の工夫	教務	・生徒アンケートにおける「学校の授業はわかりやすい」の肯定的回答の割合が80%以上	86.0%	A	84.3%	A	○研究部が中心となった授業研究を通して、深い学びの意義を理解し、主体的、対話的な学習に挑戦する授業が着実に増えた。	
地域に開かれた 信頼される学校	情報提供	・9年間のつながりでの子どもの成長をサポートできる連携体制の確立	生徒指導	・保護者アンケートにおける「参観日、懇談会、各種たより、HP等で学校の様子がよくわかる」への肯定的回答の割合が80%以上	83.0%	A	85.0%	A	○「総合的な学習の時間」の様子を壁新聞や動画で保護者に紹介した。その結果、保護者から、学校の指導内容に対して高い評価をいただくことができた。 ○週に1回、小学校と連携を行い、兄弟関係はもちろん地域でのようすや各校の取組を共有し、9年間のつながりを意識して自校の取組を考え実施することができた。（校則の見直し、新入生説明会、入学前面談等）	・学校の情報提供に対し、保護者がどう受け止め、どう行動しているかが見えにくいという指摘があり、学校・家庭・地域が「おんぶにだっこ」にならずに協力し合う体制の重要性が強調された。 ・防災訓練を地域と合同で行ったことなどの成果を評価しつつ、地域全体で子供を育てる「受け入れ態勢」の構築が今後の鍵であると議論された。
		・各種たより等の定期的な発行及びHPの定期的な更新	教務							
働き方改革の推進	業務の効率化	・教職員個々の目標や実践の共有による、教育効果の最大化	教頭	・教職員の自己評価「3」以上の割合が80%以上	60.8%	B	85.0%	A	○目標が未達成のものが若干あるが、1年間を通して取り組むことで一定の成果が見られている状況である。 ●一部に目標を下回っているものがあったので、来年度の取組で成果につなげたい。	
		・業務改善を推進し、教職員の在校時間の短縮	教頭	・時間外勤務、月80時間以内の割合が80%以上	80.9%	A	86.3%	A	○前期に比べ後期の時間外勤務が減少した。業務改善を進めることで教育活動の充実につなげていきたい。 ●一部の固定化した職員が時間外勤務が多くなっている実態がある。	

重点項目★

小中共通項目☆

【自己評価】 達成度（A：80%以上 B：50%以上80%未満 C：50%未満）